

類型化システム(アナログ放送(FM放送))

名称	超短波放送(アナログ) 周波数帯域の拡大	
用途・目的	新規放送局の置局とデータ多重放送の高度利用	
利用分野	想定される利用イメージ	逼迫した電波状況の改善
	同一目的既存システムとの差異(新たに周波数を確保する必要性)	関東、近畿、瀬戸内海地域での逼迫した電波状況の改善。県域放送局の難聴地域解消のための中継局用に確保。現在の90MHzまでの周波数では需要を満たすことが不可能。
	代替手段/新規性の有無	代替手段一無 新規性一有
無線局免許形態(免許の要否等)		要
提供形態	共同利用システム/専用利用システム	専用利用システム
	サービスエリア(都市部/郊外/ルーラル、スポット的/面的/地形的等)	全国(FM放送に準ずる)
	エリアのカバー方法(大ゾーン方式、小ゾーン方式)	既存FMに準ずる
	システム規模(無線局数)	1000局~2000局
	サービス数(サービスの提供を受ける者の数)	1億人
利用形態	移動/半固定/固定の別	固定・移動
	通信・放送形態(1対1、1対多、陸海空)	1対多
	通信・放送内容(データ通信(高速、低速)/音声通信/画像通信等)	音声放送・画像、文字、データ通信
	アプリケーション	
要求条件	通信・放送のトラヒック特性(時間、場所(運用エリア)、通常/緊急時)	全地域、24時間
	通信・放送の同時刻性(遅延不可/許容、蓄積型伝送)	許容可 退時伝送 データ放送は蓄積型も可能
	通信・放送品質(品質保証/ベストエフォート)	強電界であれば品質保証 受信電界がとれない場合は対象外
サービスの継続性	企業活動	
技術的基礎	既存技術との差異	音声放送としては差異は無いが多重放送の場合は有。サブキャリアの変調方式は有
	要素技術の開発状況及びその想定される導入時期	要素技術は開発済
	導入への課題と機器実現性	90MHz~108MHzの受信機の普及
標準化	標準化・規格化の状況	標準化済(ITU-R)
	国内/諸外国の動向	諸外国では108MHz帯までがラジオの専用帯として利用されている。
	公開技術であるか否か	公開技術
社会生活(公共福祉、安全・安心)への貢献	超短波放送の高度利用による公共福祉、安全、安心への貢献は大きい	
社会へのインパクト	新規放送局の開局数が増加することによる社会的インパクト	
経済産業活動の活性化	新しいラジオの買い替え需要	
地域の活性化	放送局が増加するために地域内が活性化が期待され、データ放送がより詳細な地域情報を伝えることが出来る。	
日本の競争力向上	IBOCなどの受信機は既に輸出されており、諸外国も採用されれば更に次世代の主力輸出商品となる。	
公共性	公共性は今まで通り確保	
システムの技術的条件	無線周波数帯域	90MHz~108MHz
	必要周波数帯幅	18MHz
	無線周波数(送信・受信)	周波数間隔 200KHz 400KHz
	占有周波数帯幅	周波数の許容偏差 FM放送と同じ
	送信電力(基地・端末等用途別)	占有周波数帯幅の許容値 FM放送と同じ
	アンテナ特性	送信電力 FM放送と同じ
	通信・放送方式等(FDMA/TDMA/CDMA/OFDMA、単信/複信/同報等)	アンテナ特性 FM放送と同じ
	変調方式	通信・放送方式等 FM放送と同じ
	隣接チャネル周波数共用条件	変調方式 FM変調 放送方式 多重放送はOFDMによるQPSK 16QAM等
		隣接チャネル周波数共用条件 FM放送と同じ

周波数共有条件	同一チャンネル周波数共有条件		
	他システムとの共存可能性／条件（周波数共有を可能とする条件等）	既存のアナログFM放送周波数（76MHz～90MHz）選定時のアナログテレビジョン放送受信に対する混信排除の制限の適用の可否。（アナログ放送は終了するが、アナログFMラジオは終了しない。）	
	その他	スプリアス発射の強度（許容値）	
		最大伝送速度及び実効伝送速度	最大147kb/s
		符号化方式／圧縮方式	
		推奨される受信基準入力電圧	所要電力アナログdB48dBμV以上 デジタル：アナログから-20dB以上
相互接続性			
セキュリティの確保			
周波数有効利用	周波数の共有（空間、時間、符合）	空間共有可能	
	周波数利用効率		
	多重化効率	1対1	
	ネットワーク構成（SFN／MFN）	FM放送と同じ	
その他			